

防災士ネットワークさばえ(BNS)と議会との語る会 まとめ

開催日:2月23日 木曜日 10時~12時

場 所:全員協議会室

出席者:総勢24名 BNS 会員14名、 議員10名

◆災害時サポートガイドについて

◇意見

- ・マップは市の全域を東部・西部・中央部と分けているが、わかりづらい。
- ・マップはこれまでの色んなデータを積み重ねたものである。
- ・マップ自体は可能性を示す程度のものである。
- ・ママ防災士として保護者の方に話すこともあるが、その中にはハザードマップを意識していない人も多くいる。
- ・自分の子供が地域防災マップ作りのための街歩き(地区公民館での通学合宿時)に参加したが、通常の通学では気が付かないことに気付いてよかったと言っていた。
- ・鯖江市153町内あるが、町内の防災マップを作製しているのは30町内程度しかない。
- ・防災マップについての勉強会を町内単位で行うと良い。
- ・マップを渡すだけではなく、併せてしっかりと説明をすることが重要。
- ・マップで自分の住む家がある場所がどういう状況なのか、その上でどうすればよいのか説明し理解してもらうために利用している。
- ・ハザードマップが家に届いたのは知っているが、中身をよくは知らなかった。

◇要望

- ・自分の住む町内の防災マップを作成したことで、自分の町内、地区のことを知ることができた。また、それを作る過程で人と人とのつながりが生まれた。ぜひ、市内の全部の町内で防災マップを作るべきだ。
- ・災害サポートガイドの内容を「広報さばえ」に掲載してはどうか。
- ・「ゴミの出し方」を1枚の用紙で作成したように、サポートガイドも1枚でのものを作成してはどうか。
- ・市側から町内の防災マップ作成のアピールをして、防災意識の向上を図ってほしい。
- ・サポートガイドの冊子の大きさを小型にして持ち運びしやすくしてほしい。
- ・サポートガイドを活用した活動をしてほしい。
- ・サポートガイドは常時保管となっているが、すぐに見てほしいもので、表示を工夫すべき。

◆個別避難計画について

◇意見

- ・個別避難計画について、自分の住む町内ではモデル地区として今年の春から組織を作り、区長を座長に据えて会議を開いている。市から区への情報提供に同意を得た要支援者を3名知らせてもらい、その中から町内の組織で2名を認定した。支援者も6名決めた。そして、その避難訓練も実施したところだ。
- ・計画策定の課題は、区長はじめ区の役員が年度で変わってしまうことだ。自主防災組織の

委員長は変わってはいけない。区の役員が変わっても持続できる組織作りが重要だ。

- ・マンパワーは大事。町内での人の発掘が大切。
- ・各町内にはご近所福祉ネットワークがある。そして自主防災組織もある。市内の殆どの町内で組織は出来ている。その他、個別避難計画のための組織を作らなければならないといわれている。既存の組織をまとめていけないかと思う。
- ・要支援者は自己申告であり、実情には合致していないと思う。結局は区の担当が一軒一軒、訪ねて確認している。そうでないと実際のところはわからない。でも、どうしても会うことが出来ず確認できない家もあり、本当に難しいと思う。
- ・名簿が、区長・民生委員に渡っているようだが、次の人へ引き継ぎが出来ていないのではないか。
- ・自分たちで対象者を確認していくと言っているが、区長が変わると町内の誰が出入りしたのか分からない。
- ・以前のデータのままなので、現状確認から始まるが、日常生活を送れる人が申請してくる可能性がある。
- ・申請した人が、全員必要な施設に入れるかどうか施設の収容人員があるため、入れないのではないか。
- ・施設側の受入れ体制が分からず不安。

◇要望

- ・避難行動要支援者の書類記載事項の中で LGBTQ など多様性に配慮すべきだ。
- ・名簿が提供されない中で、65歳以上を調査してほしいと地区に連絡が来てもできない。地区に丸投げはやめてほしい。
- ・市として、今後、個別避難計画策定に取り組む町内の数の目標を 60町内と定めても、町内により大きな差が出ると思う。予算など行政の都合もあるのかもしれないが、目標数にこだわらず、やる気のある町内から先に進めていけばよいように思う。

◆その他の意見について

- ・防災組織の仕組みについて。組織が出来ても、行動に結び付けるのが難しい。毎年の避難訓練防災訓練も良いが、どうすればよいか、実際に動くことを想定して行った方が良い。
- ・アクション計画が大切だ。
- ・町内の自主防災組織の担当者は充て職の町内もあるため、毎年変わってしまう可能性がある。固定するための方策が必要だ。
- ・現場の情報がどのように伝わるのか、しっかりと検討してほしい。
- ・防災無線は聞き取りにくい。受信状態が良くなるようにしてほしい。
- ・身近なところで情報を取れたらよい。
- ・スマートフォンは情報がすぐに入ってきて便利だが、高齢者やスマホを持っていない人には届かない。
- ・「結ネット」を利用すれば良いのではないか。
- ・介護が必要な方は、2種類以上の方法で情報を受け取るようにすべき。
- ・福井豪雨の時もそうだったと思うが、川上で起きていることが、川下に伝わっていないので、伝えるための体制が欲しい。